



樹 姉 ば よ り

No.149
2017.3

慈 悲 喜 捨

三月の春分の日は、お彼岸の中日です。太陽が真東から昇って真西に沈み、西にあるあの世（彼岸Ⅱひが）と、東にあるこの世（此岸Ⅱしがん）が通じやすくなると考えられて、ご先祖様を供養するためにお墓参りをするようになったといわれています。

ご先祖様を供養するのは、あの世のご先祖様は悟りを開かれて一人は何故生きるのか「人は死んだらどうなるのか」ということに対する答えを知っていて、その一方で、私達はこの世で迷い、悩み、煩惱にとらわれ続けています。そのような私たちが、悟りの境地であるあの世に少しでも近づけるようにという願いからお墓参りをするようになったということなのです。次第に気候もよくなり、お墓参りに出かけるにはいい季節となります。今の自分を省みる時として、自らのルーツであるご先祖様に感謝し、家族とともに心を込めてお墓参りをしてはいかがでしょうか。

さて、三月一日は卒業式です。「三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。」光陰矢の如しと言うように、卒業生も私たち教職員にとっても、あっという間の

三年間でした。人生において、最も成長するといわれる貴重な時を、縁あって本校で学び、生涯に亘って大切につける宝物をたくさん思いまします。これまで支えていただいた、保護者、先生、友達、ご先祖様等たくさんの方々への感謝の心を忘れず、笑顔と謙虚さを大切に、一人ひとりが新たな場所へ活躍してくれることを期待しています。

また、在校生も間もなく一年が終了となります。昨年、新学期の朝礼で、学校長が「一年が終了したときに、自分がどのようになっただけのかをよく考えて生活しましょう。」とお話されました。一人ひとりが、今の自分を見つめ、どのようになっただけのか確認しましょう。努力した人にはそれだけの成果があり、もしかしたらその反対の人もいるかもしれないと。大切なことは、努力は自分を裏切らないということを通じて次へ進むことです。

節目のときに、自分自身を振り返って新年度の目標を立てましょう。そして、よりよい生活をして、良い成果へつなげていきましよう。

新たな春がまもなくやってきます。

教頭 金安伸一

卒業式 式辞

樹徳中学校・高等学校校長

野口 秀樹



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございませう。みなさんの卒業に際して、今月号には、平成二十八年年度の卒業式・式辞を掲載いたします。

式 位 辞

岩走る
垂水の上の早蕨の
萌えいづる春に
なりにけるかも
(万葉集卷八 志貴皇子)

春の光を受け、大地のそこかしこに生命の胎動を感じる今日の佳き日、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、明照学園樹徳高等学校卒業式が盛大に挙行されますこと、誠に有り難く心より感謝申し上げます。ご来賓の皆様、誠に有り難うござい

ます。

さて、只今卒業証書を手にした三九〇名の卒業生諸君、ご卒業おめでとう。諸君の一人ひとりの胸の内には格別の感慨があろうかと思えます。人生の意義ある節目の一つとして、今日の日の思いを忘れずに、大切にしたいと思えます。

諸君は学習、部活動、学校行事、清掃、奉仕活動、また仲間との学校生活等において、本校の教育理念でもある「智慧と慈悲」の精神を弛まず実践し、見事体現されました。何事にも真摯な姿勢は実に立派でありました。

本校での三年間、中学校からの諸君は六年間、公立学校では決して学ぶことのできない「祈りの生活」・「感謝の生活」・「奉仕の生活」等々、み仏のみ教えに導かれ、学業を成就いたしました。

私が常々諸君に語りかけてきた「誰かの何かのお役に立つ」。君たちは在学中から実践してくれました。市街地清掃、施設訪問、歳末助け合い募金活動、独居老人宅清掃等のボランティア活動。現在では地域を越え、

東南アジアのミャンマーの地へ広がり、樹徳の教育が形となって顕現されています。学園での生活は、いつの日か諸君の人生の中での貴重な財産となるものと確信しております。しかし、ある意味では高校生活は、社会や周りの人からの見守られた環境の中での生活であつたことにも心を留めて下さい。

学園を巣立つ卒業生諸君に饒の言葉を贈ります。

先ず、創立者野口周善先生が、昭和十五年の卒業式で生徒に向かつて話された言葉であります。

「人生航路の難は、向かう山にあらず、向かう川にあらず、ただ人情反復の間にある。世間は厳しい。謙虚に逞しく」

人情反復とは、人の心の変わりやすさを言います。人生につきまとう厳しい世間に、どう立ち向かっていくべきかが示されていきます。先生は、他人を先に立てる謙虚さと同時に、逆境に直面してもたじろがない不屈の逞しい精神力を持って歩め、と述べて

います。時代を経て、樹徳の校風が培われた今こそ心すべき至言であると思っております。

二つ目は、私の好きな言葉、明治、大正、昭和と活躍された陶芸家の河井寛次郎氏の言葉です。

「過去が咲いている今 未来のつぼみでいっぱいな今」

その意味は、自分で蒔いてきた種によつて今の自分がある。今の姿がある。これは誰の責任でもなく、気がつかなかつたけれど自分で選んで育ててきた姿である。蒔いた種とは、考え方や、生活の仕方、学習、努力、行動などすべてです。そして、私の未来に対しては、今、自分で知らずにつくつていく。であるならば、意識して善い未来づくりの種を蒔かねばと思ひます。

諸君「未来のつぼみでいっぱいな今」です。

創立百周年に入学した諸君は、学園の新たな発展へと導く、次なる一世紀の歴史を拓いた記念となる卒業生なのです。社会に出て大いに世の光と

なることを願っています。創立以来、私達の願いは本学園に縁のあつた青少年が、豊かにこの国を支えてくれることでありませう。卒業生の諸君、これからが真の人生航路の船出です。我が学園の卒業生として、常に矜持を持ち、積極進取の精神で多くのことを学び、感謝と喜び、そして祈りの心を保持し、お役に立てる人に成長して下さることを念じております。

結びになりますが、保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございませう。

皆、様々な困難を乗り越えてこのように立派に成長いたしました。未来に羽ばたくこの晴れやかな姿を皆様とともに喜びたいと存じます。

また、本校教育推進に格別なご協力を賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

本学園を代表し、皆様に衷心より感謝申し上げます。

平成二十九年三月一日

合掌

卒業生への饒あまののごとば

第三学年男子部主任

須藤 雅人



者の苦しみをとり除きま
す。

【喜】憎しみを克服する
為に共感する喜びを身に付
けよう。共感する喜びは、
他者の幸福を喜び、他者の
幸福や成功を望むときに生
まれるものです。

【捨】偏見を克服するた
めに無執着を学んでいこ
う。無執着とはすべてを開
かれた心で平等に見る力で
す。

ご卒業、おめでとうござ
います。心よりお慶び申し
上げます。

第三学年女子部主任

飯田 豊



三年生の皆さん、ご卒業
おめでとうございます。入
学してから早、三年が経ち、
今日という日を迎えますし
た。保護者の皆様のお喜び
も、さぞ大きなものであり

うと思います。

皆さんが入学してきた時
には、学校はまだ今のよう
ではなかったですね。敷地
内の至る所で工事をしてい
ました。安全確保のための
フェンスが張り巡らされ、
それによって中庭に通路が
できていたのを覚えていま
すか。工事の音がうるさく
て、なかなか授業に集中で
きなかったのではないかと
思います。他にも色々と思
い、便なことがあったでし
ょう。しかし、それらに耐え
たおかげで、素晴らしい校
舎や体育館を利用できるよ
うになりました。
変革の時には、多少大変
な思いをしなければなりま
せん。皆さんの入学した年
に樹徳高校は百周年を迎
え、新たな一步を踏み出し
ました。先ほど述べた工事
は、その一つですね。これ
から皆さんは新しい世界に
入っていきます。変革の時
です。困難なこともあるか
もしれませんが、明るい未
来に思いを馳せて頑張って
下さい。



先生方からのメッセージ



最後の宿題

「幸せになりなさい」

長 諒順

ここからが本当の人生

頑張れ!!

内藤雅人

不自由を常と思へば
不足なし 須藤 雅人

あきらめたら
そこで試合終了
ですよ 長谷川 貴久

仁義礼智信 悟得

高田 仁世

野々肴ッ代ナラハ
力の限り生きてやり
卒業おめでとう 勇 達誠

Congratulations on your
graduation. I hope that you
will all have a bright future.
Enjoy every moment of your life.
Mr. Wish

弱気は最大の敵

新井 誠

為せば成る
為さねば成らぬ何事も

関口 悠

急がず休まず諦めず

稲井 龍太

気合いと根性で
なんとかする。 馬越

若くは不可能を
可能にし、いくことである

田村 行輝

全力で物事に取り組め
手を振る行為は自分の行為を
バカにしてることに
自分を信じろに
苦しい時に助けにくるのは
過去の自分です

日々を大切に 竹澤 奈保子

孫子の代成り心して生きろ
世界をつくる努力を始めよう。
温政 知新

懸情流水

愛 思 刻 石

飯田 豊

飛翔せよ

一歩一歩夢をかたちに。出口
のないトンネルはない。阿部 洋太郎

卒業を迎えて

「三年間を振り返って」

三年J1組 川村 太郎
(桐生境野中出身)



私が毎日剣道の稽古をしてきた六階にある錬成室の窓からは、とても美しい夕日の景色が望める。この窓から見える景色が、私は「大好き」である。

一年生の頃はまだ、ここから木造の旧校舎が望めた。樹徳の伝統を感じるその重厚な校舎は、入学式の日、私たちを温かく迎えてくれた。その姿が取り壊されていく様子を淋しい気持ちで眺めていたものだ。そんな景色も今では、新しく完成した明照体育館などに変わって、近代的で美しくなり、私たちは奇しくも創立百周年という記念すべき歴史の一ページに携わる事ができた。このご縁をと

ても光栄に思っている。

毎日見ていた窓からの景色は、私の気持ちによって見え方が日々変わって映った。中学生から始めた剣道だったが、樹徳ともなると、その練習の量と質は格段に違っていた。厳しさに戸惑い落ち込んだ日も、仲間と楽しく語り合った日も、そこには必ずその景色がいてくれた。やっとレギュラーを勝ち取り意気揚々で見た景色、アキレス腱断裂という大怪我に絶望と悔しさで曇ったその景色は、私の心に刻まれて一生の宝物となるだろう。私は樹徳の剣道部で最高の師と仲間たちと出会うことができたのだ。卒業を前にした今、三年間を振り返ると、学校行事ではスキー教室や体育祭、修学旅行や月影祭と、楽しかったことも辛かったことも、どれも良い思い出になって心に残っている。こうして充実した高校生を送ることができたのも、良きクラスメートや剣道部の仲間たちのおかげ

だ。毎日学校へ行くことが楽しくてしょうがなかった。そしてそれは、更に多くの先生方に支えて頂いたからだろう。いつも優しく親身に、時に厳しく接して下さった先生方に対し、感謝の気持ちでいっぱいだった。私は樹徳に入学して本当に良かったと改めて思っている。これからは、樹徳の三年間で学んだことを糧に、新たな道を歩んでいく覚悟だ。錬成室の窓から見たあの景色とともに。



「かけがえない時間」

三年J3組 坂上 由美
(太田東中出身)



私にとって樹徳高等学校で過ごした三年間は、自分が大きく成長できた、貴重な時間だった。

一年生の一学期、「部活動と勉強の両立」という問題に直面した。両立はそう簡

単にはいかなかったのだ。少林寺拳法部に入部し、部活動に夢中だったので、勉強が苦手な私は、「部活」を理由に宿題や課題にしっかり取り組まなかった。成績は下がる一方だった。今思うとある種の現実逃避だった。そんな時、監督からの「気持ちを切り替えろ。」という言葉が私の心に突き刺さった。私は、切り換えが下手で漠然と過ごしていた自分を省みた。生活に「けじめ」をつけられず、すべてに中途半端だった。それ以来、授業中の集中と計画的な自学で、しっかりと学習に取り組んだ。成績は向上し、そのことで部活動もより一層楽しくなバーになった。一年生ながら主力メンバーになった。一年生に進級すると、思いがけず、少林寺拳法部の主将を、クラスでは委員長を務めることになった。この経験が、私をまた大きく変えた。私はそもそもコミュニケーションが苦手な人前で話すことはおろか、人をまとめるなどということは想像もつかなかった。だから初めは失敗を恐れて何事にも消極的で、「お飾り」

のリーダーだった。そんな私の背中を押してくれたのは、部活動の仲間やクラスメート、関わって下さった先生方だった。少しづつではあるが自信を持って「前」へ出られるようになった。いつの間にか人前で自分の考えを述べたり、相手を説得したりすることも無理なくできるようになった。少し大人になった気分を味わったのもこの頃だった。私は積極的に前向きな人間に変わった。この自信は戦績にも反映し、二次の終わりに関東大会で個人・団体入賞という成果となって結実した。

三年生になり、進路を決定するにあたり、現実としっかり向き合うことができた。「人の命を預かる看護師になろう。」と決意し、専門学校への進学を決めた。

私は、既に次のスタートラインに立っている。勿論、不安はある。しかし、この三年間で高校生として成長できた自分を、次のステップでも発揮していきたいと、希望に胸を膨らませている。



自分の心のハンドルを

握っているのは 自分で

蕾から…

まだまだ寒い日が続く中でも、梅は蕾をふくらませ、花を咲かせようとしている。厳寒の中で準備を怠らず、開花の時を待っている姿は、間もなく卒業を迎える生徒たちに重なるものがある。

三年間に及ぶ高校生活には、様々な出来事があり、その道のりは決して平坦なものではなかったはずだ。勉強、部活動、辛い思いを繰り返して、それでも満足できるものが得られず、投げやりな気持ちになりそうだったこともあるだろう。友人との関係にしてもそうだ。些細なことから気持ちが悪くなる、意に反して険悪な仲になってしまったり、疎遠になってしまったりしたこともある。進路のことで、大いに悩んだことだってあるはずだ。しかし今、それらを乗り越え、それぞれが新たな道を歩ん

でいこうとしている。

国内外に目を向けても、またもや、とも思える大地震、文化財等の大被害。終わりのない政変や内紛。その惨状は目を覆いたくない。政治、経済的にも安定を欠く国も多く、さらに他国の思惑も加わり、混乱の度を深める国さえある。多くの難民が行き先を求めてさまよひ、時には悲惨な結末に至ることすらあるのが実情だ。多くの人々が心を痛めている。このような中で、生徒たちが無事卒業を迎えられることは、大人の視点からすれば、安堵と感激の情を一層抱かせるものである。

しかし、卒業は区切りの時であり、新たな始まりの時でもある。卒業をモチーフにした歌がたくさんある。定番の「揚げば尊し」にも、このよう

「今こそ別れめ
いざさらば」
※今、お別れである。

さようなら。さらに、「螢の光」にもある。

「いつしか年も
杉の戸を
開けてぞ今朝は
別れ行く」

※いつしか年月も過ぎてしまった。慣れ親しんだこの杉の戸を開けて、今日は別れて行く。

別れは、悲しく、辛いものではあるが、すがすがしいものでもある。今では、卒業式の定番曲もずいぶん変わったというが、それらの中には、そこを強調したものも多い。最近の曲は版權の問題もあり、そのまま引用するのははばかられるので、その意味合いだけ。「君と過した時間が、僕の中で輝いている」

「ありがたう、忘れない。またここで会う日まで」
「君に会えたことが、ぼくのたからもの。」
とても心に響く。

またこのような(内容の)歌詞もあった。
「さよならを告げる
たび、ぼくらは
強くなれる。」
「思い出に涙し、
また一つ、
大人になっていく。」

今、皆が、喜びに心を弾ませ、はちきれんばかりの

希望を、その胸に抱いていることと思う。しかし、それだけでなく、ぜひここで、これまでの三年間を振り返り、自己について考えてみてほしい。新しい出発に向けた意気込みの腰を折るつもりはない。だが、どの歌の歌詞も、見てくれればよくわかると思う。今の自分に関わってくれた多くの人々がいたことを。ふくらんだ梅の実は、幹から伸びた枝に芽吹き、幹は根に支えられ、根は大地から栄養を吸収している。そして、大地は自然の摂理によって存在している。梅の実は自らに置き換えれば、自ずと、自分が多くの人によって守られ、支えられ、生かされていることが理解できる。

それは、真に自分を大切にしなければならぬという自覚であり、両親や先祖までを含めた多くの人々に対する感謝である。その心を、今後も生活の基本として実践することが、自分を支え、また、自分が人を支える立場となった時の糧にもなってくれる。

卒業生諸君は、本校生徒の基本的姿勢である謙虚さ、敬虔な態度を身に付けている。在学中に学んだ事柄を、卒業を期に、もう一度思い出して欲しい。そして、どんな苦境にもめげず、歯を食いしばって、自分の人生を、一步一步確実に歩んでいってくださることを、職員一同、切に願っている。

【編集子】



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」 3月の行事予定

- (1) ラタンアート工房「桐生籐工芸」
主催 野村ナナ子さん 2, 16日(木)
- (2) 七草ゼミナール塾
主催 上野文雄さん 15日(水)
- (3) 販売実習 (11, 18日の土曜日)
 - ①「相田みつを美術館」取扱い商品
 - ②「星野富弘美術館」取扱い商品
 - ③ 東北復興支援商品 (海産物等)

一貫校

中学校

だより

◆課題に対応できる人間力

今回は、自己成長を遂げ、自立した社会人となるために身に付けたい資質を紹介いたします。

みなさんが中学・高校・大学と進む過程で、どのような生き方をしたらよいのか、私の教職経験を踏まえて、人間力をはぐくむ視点から五つの資質について述べたいと思います。

一、謙虚さ。謙虚とは素直・誠実であることです。物事を自身の問題として、自問自答する姿勢を持っていること。物事を多角的に見たり、相対化して考えられることです。謙虚さは向上心となり、人間を高次の段階に導きます。

で疑問が生じたら、考えを深めていかななくては、解決に至りません。追究心は学ぶことをとおして身に付きます。

三、気魄（気迫）。私たちが複雑な社会機構、多様な価値観を有する他者との人間関係の中で生きていくためには、精神的にも元気があることが第一です。気概という言葉がありますが、事にあたっては、決して負けないという信念を持っているかが問われます。信念があれば元氣な振る舞いができます。

四、感性。自然や人間の営みに対して、感動できる心豊かな人。他人の思いや願い、痛みに共感できる感性（感受性）を身に付けたい。些細なことにでも事の重大性を感じるところに人間の織りなす沢山のドラマ（劇）が生まれます。

五、教養。教養とは人間をつくりあげることで、専門分野に限らず、歴史・科学・文学・芸術など先人の産み出した知の財産を継

承できる生き方を少しでも身につけたい。そのためには読書が欠かせません。書物に向かい合い、考えるところ、孤独な営みをおしてこそ、人間として心の広さが培われます。他者との円滑なコミュニケーションができる、ということは、教養があつて初めて可能なのです。

将来、不透明で変化の激しい社会の中に立たされても、上記の資質を身に付けていたら、乗り越えて行くことができます。自己と真摯に向き合っていく生き方が自己実現に通じます。日々の授業にしっかりと取り組むことは勿論のことですが、より善い生き方とは何かを問い続けていくことも大切にしたいものです。

（顧問：齋藤哲也）

第十五回 立志式

二月九日、第二学年（十五期生）の立志式が桐生市中央公民館市民ホールで行われました。

立志式を迎えるにあたり二年生は皆、自分の将来について真剣に考え、自分が社会でどのように活躍していきたいか、それぞれの志

を文章にまとめました。二年生を代表して大澤光太郎君が「はばたく自分」、尾花理子さんが「努力」と題して立志の言葉を披露しました。



立志式記念講演 原晋監督を迎えて

立志式記念講演には、箱根駅伝三連覇を成し遂げた青山学院大学陸上競技部の原晋監督をお迎えしました。

「魔法をかける箱根駅伝三連覇裏話」と題して、三連覇までの強いチーム作りのポイントや色々なエピソードを交えてご講演戴きました。

十年後の自分を思い描き、精一杯チャレンジすること、常に半歩先の目標を考え、その目標を達成することで自信を持つこと、規則正しい生活を心がけ、当たり前を徹底すること、等等々成功までのプロセスを語り、大きな夢を持つ生徒達にエールを送って戴きました。

幼稚園だより

「締めくくりの三月を迎えて」

三月を迎えて

春の息吹が冷たいかぜのなかにも感じられる三月を迎えました。楽しいことがいっぱい的一年を過ごした子どもたち。春の出会い、親子登山、愉快なプール遊び、一生懸命頑張った運動会、みんなで力を合わせた発表会、節分の豆まきなど、思い出がたくさんできたぶん、大きく逞しく成長しました。新しい年度に向けて、楽しく充実した時間を大切に、締めくくりの月をしたいと思えます。

「思いやいを育てる縦割り保育」

縦割り保育(異年齢交流)は、本年度の具体目標の一つとして取り組んでいます。この時期になると異年齢(各学年)における成長がよく分かります。



「真剣です！」一年長さん

前にして、頼もしく大きく成長しました。卒園は寂しくもありますが、小学校での活躍に、大きな期待が膨らんでいます。

その姿は年中さんや年少さんの心に残り、これからの園生活に大きなプラスとなって生かされることと思います。年中さんの縦割り活動に取り組む姿から、年長さんへのあこがれや期待が強く感じられました。年少さんもお兄さんお姉さんにリードされ、製作・給食・自由遊びを楽しそうに過ごし、力を出し切って、満足感いっぱいの日でした。

これからも、相手をいたわる世話ではなく、相互に相手の主体性を引き出せる関係を大切に、新たな楽しみや、遊び心が生まれる「一日縦割り保育」に取り組み、それぞれの成長に役立てていきたいと思えます。

「新制度への移行の中で」

『お母さん、ごい』
「ヒカリちゃんのお母さん、ごいごい」

「ごいごいごいごい」

「それは「ウちゃんのお母さんでしょ」

弟を抱いた私に、娘は言った
長いまつげの小さな目は悲しげにも見えたし、何かをため込んでいるようにも見えた

「じゃあ、ヒカリちゃんのお母さんはどこにいますか」と思ふ。病院に寝ているのだと思ふ。バアバが言っていたよ。ヒカリちゃんのお母さんは、病院に行つたよって」

娘は、私が弟を出産した日のことを言っているのだ。「お母さんを迎えにいかなくちや」玄関でくつをはこうとする娘の小さな背中を見ていたら私は

夕闇の中で大切な人に置き去りにされたように心細くてたまらなくなった同時になぜか動揺している自分がくやくもあるのだった娘はふり返って

私が泣いているのを見て「あつ、ヒカリちゃんのお母さん、やっぱりここにいた」と無邪気な風に言うのだった

(小野 省子)

現代の社会で、幼児の最善の利益が優先されていきますか。現代の子育て社会は、幼児の気持ち、幼児からの目線が欠けていませんか。主張できない幼児の「親と居たい」という願いを想像しなくなったら、社会から人間性がどんどん失われていきます。子はかすがいいではなく「子育て」が人類のかすがいだった。

―冬季研修―(松居 和子先生の講演より)

このことを、忘れずに保護者皆様と共通理解を図り、幼児の最善の利益が優先される幼児教育にしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

園長 瀬谷 茂

「平成二十九年度・入園願書受け付けております」

○問い合わせは樹徳

幼稚園まで

☎0171-511-5571

3月(智慧)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貴 校	幼 稚 園
1	水	卒業式	頭髪服装指導・早朝自主学习(～8日)	英語(全)・文字と数(年長)
2	木	卒業式後片付け		体育(全)・文字と数(年中)
3	金	授業料納入日 スキー教室費用納入日 雛祭り 私学校長会		ひな祭り 保育料納入日
4	土		数学検定④	
5	日			
6	月	学年末試験(～9日) 教科主任会	学年末試験(～8日) お役に立とう週間	リズム(全)・線(年少)
7	火			お別れ遠足
8	水	マイトリー基金拠金日		お茶のお稽古 英語(全)・文字と数(年長)
9	木	市街地清掃		お別れ会練習 体育(全)・文字と数(年中)
10	金	防火避難・初期消火訓練		お別れ会・謝恩会(保護者)
11	土		1学年・2学年保護者会	
12	日			
13	月	朝礼		リズム(全)・線(年少)
14	火	第3回法人役員会		茶白山登山 読み聞かせ(西山先生) 法人役員会
15	水	大学合格者報告会	ミニマナーアップ運動	英語(全)・文字と数(年長)
16	木	視聴覚教室② 第3回入学手続き	視聴覚教室 3学年保護者会	体育(全)・文字と数(年中)
17	金	担任宛成績提出		
18	土			
19	日			
20	月	春分の日		
21	火	教務宛成績提出		卒園式予行演習
22	水	出欠統計提出 三学期出欠締切 女子制服アフターサービス		第64回卒園式
23	木	学年別一斉指導 成績会議		預かり保育①(卒園生)
24	金	終業式 大掃除	終業式 大掃除 卒業証書伝達式	第3学期終業式 預かり保育②(卒園生)
25	土	生徒春休み クラブ強化合宿開始	春期特別補習(～28日)	
26	日			
27	月	学籍整理・年度末事務 総務会 奨学生審査会	進路講演会(3年)	春休み(～4/9) 預かり保育①
28	火	学籍整理・年度末事務 教科主任会議 新入生進学クラスオリエンテーション		預かり保育②
29	水	学籍整理・年度末事務		預かり保育③
30	木	学籍整理・年度末事務		預かり保育④
31	金	学籍整理・年度末事務		預かり保育⑤

※ 1日は高等学校・一貴校・幼稚園の校内安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく